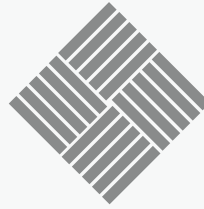


# 組紐・組物学会 ニュースレター

The Kumihimo Society Newsletter



Volume

3

Number

2

2013年3月25日

## 組紐・組物学会行事（終了分）

2012年10月12日(金)	10:00～12:00	第3回京都ワークショップ&レクチャー「クテ打径路図」木下雅子
2012年10月12日(金)	13:00～16:00	同ワークショップ「クテ打追加基礎技法」木下雅子
2012年10月13日(土)	9:00～12:00	同ワークショップ「クテ打追加基礎技法(続)」木下雅子
2012年11月10日(土)	10:00～16:00	第3回東京ワークショップ&レクチャー「クテ打基礎技法」木下雅子
2012年12月14日(金)	10:30～16:00	第4回京都ワークショップ&レクチャー「検定直前講座」多田牧子
2012年12月15日(土)	9:00～16:00	第3回組紐検定試験(京都会場)実技試験
2012年12月16日(日)	9:00～12:00	第4回京都ワークショップ&レクチャー「検定直前講座(続)」多田牧子
2012年12月16日(日)	11:00～12:00	第4回組紐検定試験(京都会場)筆記試験
2013年1月19日(土)	10:00～16:00	第4回東京ワークショップ&レクチャー「唐組」亀井三枝子・相原日出子
2013年2月8日(金)	10:00～16:00	第5回京都ワークショップ「鼓組」亀井三枝子・相原日出子
2013年2月9日(金)	10:00～16:00	第5回京都ワークショップ&レクチャー「唐組」多田牧子
2013年3月16日(金)	10:30～16:00	第5回東京ワークショップ「プライ・スプリット」多田牧子

## 目次 Contents

2 複合材料の組紐 仲井朝美

6 プライ・スプリット 多田牧子

8 組紐・組物学会関連行事予定

## In this issue

Kumihimo in Composite Materials	Asami Nakai	2
Ply Split	Makiko Tada	6
Forthcoming Kumihimo events in and outside of The Kumihimo Society		8

## 組紐・組物学会ニュースレター

第3巻第2号 2013年3月25日発行

編集・発行 組紐・組物学会事務局 京都工芸繊維大学大学院

伝統みらい教育研究センター内 〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

TEL/FAX:(075)724-7844 E-mail: inoda@kit.ac.jp

本印刷物と同じ内容は学会のWebでもご覧になれます。 <http://www.kumihimo-society.org>

# 複合材料の組紐

Asami Nakai  
仲井朝美

## 複合材料とは？

まず最初に、複合材料とは何か、という説明から始める。複合材料とは、2種類以上の材料を複合したもので、それぞれの長所を合わせ持つようにし、単体の材料より優れた特性を実現させたものである。一般には、より軽くより強くを目的にしており、例えば、釣竿やゴルフクラブ、ラケットに使われている炭素繊維を樹脂で固めたものなどがある。

複合材料は、元となる母材と、それを強化する強化材からなる。元となる母材が樹脂（プラスチック）で、強化材が繊維であるものを繊維強化プラスチック（Fiber Reinforced Plastic：FRP）という。FRPという言葉を目に

したことはあるのではないだろうか。

樹脂と繊維を組み合わせることによって強度を確保する技法は7世紀に既に漆と麻布を組み合わせる乾漆造（かんしつづくり）で用いられていた。奈良・興福寺の国宝・八部衆（阿修羅像など）もこの技法で8世紀に制作された。たび重なる火災を免れて今日に至っているのも、非常時に容易に持ち出すことを可能にしたその軽量性によるものではないかと言われている。



図1 土壁



図2 合板

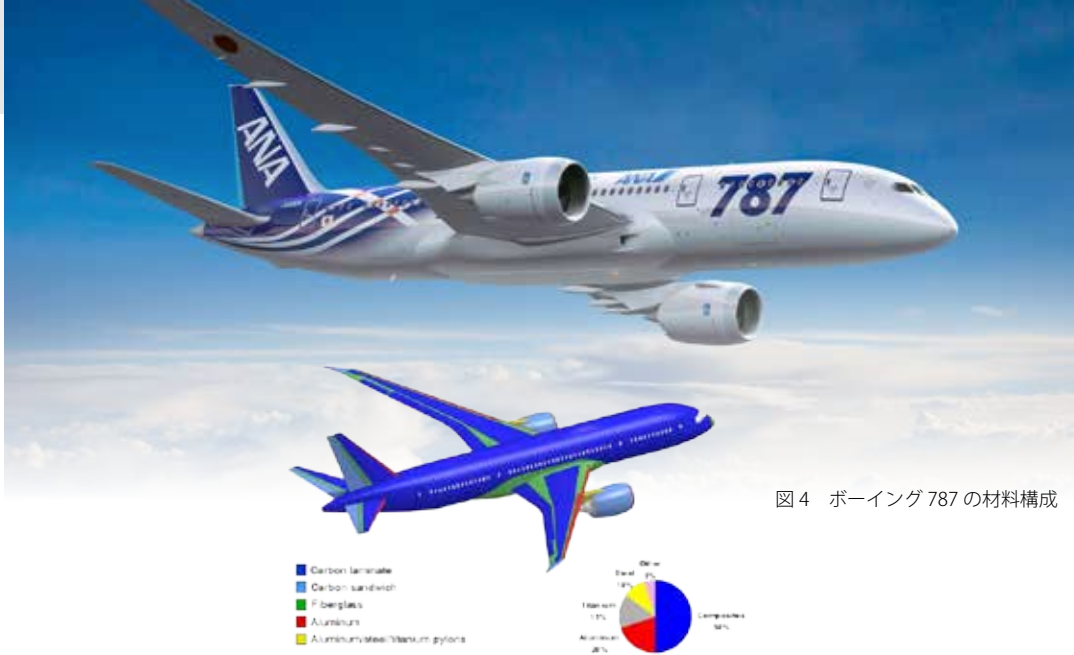


図4 ボーイング 787 の材料構成

藁くずを入れた土壁（図1）なども繊維強化複合材料の範疇に入る。身近な複合材料として、合板（図2）と鉄筋コンクリートが挙げられる。前者は強度に異方性のある複数枚の板を張り合わせて強化したいわゆるサンドイッチ構造であり、後者は圧縮のみに強いコンクリートを鉄筋で補強し引張応力に対処したものである。鉄筋コンクリート構造物（図3）は、鉄筋とコンクリートを現場で組合わせて製造することが多く、まだ固まらないコンクリートを保持する型枠には合板が使われることが多い。複合材料が特に意識されないほど、日常的に使われていることが分かる。

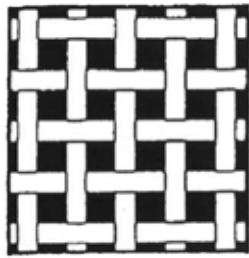
複合材料の概念は40年ぐらい前に登場し、今では衣食、住からスポーツ、レジャー、自動車、電子、電気、通信、情報さらには宇宙、航空、海洋など人間が生活するあらゆるところで活躍しているが、一般の人にはその実際の姿が

あまり知られていない。繊維強化プラスチックは、金属材料（合金）よりも丈夫で軽量なことが多く、重量と燃費が関係する乗り物での利用が多い。とくに軽量化が非常に重視される航空機や宇宙機では多用される。ヘリコプターの回転翼にも使用され、関節の無いヒンジレスローターが実用化されている。また、繊維の方向を工夫することにより、き裂が拡大しにくい構造にする事が可能で、戦闘ヘリコプターは銃弾を受けても数分間は飛行可能である。図4に示すように、ボーイング 787 では重量の50%近くが複合材料に占められるほどになっている。

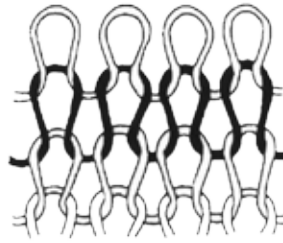
これまで幅広く使用されてきたアルミニウム合金であるジュラルミンなどは、より性能の高い新型複合材料に置き換えられ、その使用量は減少傾向にある。ほかに自動車などでの利用もある。

図3 鉄筋コンクリート構造物の製造





(a) 織物



(b) 編物



(c) 組物

図5 テキスタイル強化複合材料の強化材

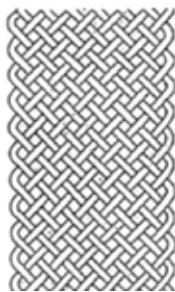
## 繊維がどのようにまざっているか？

繊維の混入方法には大きく2種類ある。短く切断した繊維を均一にまぶす方法と、繊維に方向性を持たせたまま（つまり、連続したまま）プラスチックに浸潤させる方法とがそれで、ガラス繊維は前者、炭素繊維は後者の方法が採られることが多い。ただし繊維の方向の引張りには強いが、繊維と直角方向の引張りには弱く（強度に異方性がある）、通常は板状の繊維の層を、繊維方向が異なるように複数枚重ねることが行なわれる。このような単純な積層では、層同士の接着強度の不足が問題（層間はく離）となるため、繊維層間を縫うステッチングや、繊維そのものの3次元化といった手法が開発されている。

繊維を3次元化する手法として、図5に示すように織物・編物・組物といった繊維加工品を作製する技術が応用されている。繊維加工品を強化材として使用した繊維強化複合材料を、テキスタイル強化複合材料（Textile Composites）という。様々な形態の繊維加工品で強化されたテキスタイル強化複合材料は、製品の要求性能に応じた繊維配向の最適化が可能であり、また、最終成形品を形成することが可能な near-net-shape 技術を実現する。

## なぜ組物が複合材料の強化形態として優れているのか？

図6に示すのは、板状の組物とその端部を切り取り繊維の連続性をなくしたもの（一種の斜交織物）に樹脂を含浸した複合材料板の引張応力-ひずみ線図である。平打組物ガラス/エポキシ複合材料とその両側端部を切断した試験片を作製し、前者を繊維の連続性を有する試験片（Noncut）、そして後者を繊維の連続性を有さない試験片（Cut）として引張試験を行なっている。引張強度はNoncut（組物）がCutの2倍程度の値を示した。なぜこのような高い強度を示すのか、という理由は、組物という形態が繊維の性能を100%発揮できる構造を有しているからである。通常、複合材料の破壊は、繊維とプラスチックの界面で発生するが、組物複合材料においては繊維の破壊のみが発生することが知られており、これは繊維の連続性に起因する。これらの結果より、繊維の連続性が重要であり、組物が織物と比較して優れた力学的特性を有する複合材料の強化形態となりうるということがわかる。さらに、最終成形品を形成することが可能な near-net-shape 技



Noncut



Cut

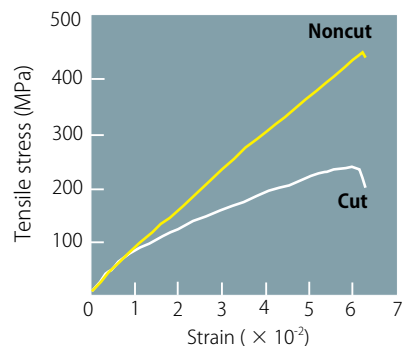


図6 平打組物の引張特性



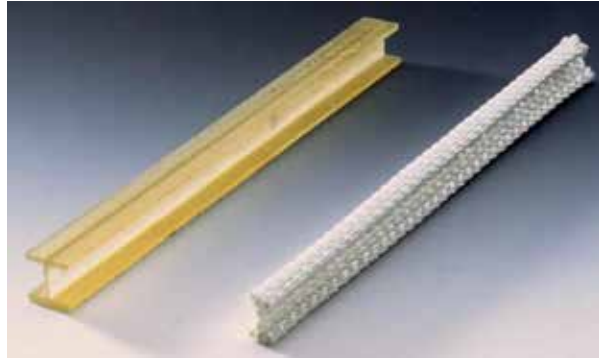
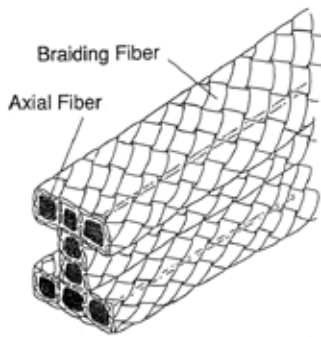


図7 I型組物の模式図と写真

術を実現するという利点も有する。その一例を図7に示す。図に示すように、I型形状を有する部材が、一体の組物で作製することが可能であり、作製コストの低減や性能の向上が可能となる。

繊維強化複合材料では繊維構造体での繊維の配向状態が、最終成品の力学的特性を決定付ける大きな要因である。組物は、図8の模式図に示すように組糸と呼ばれる斜めに連続して配向する多数本の繊維束と、組糸間で組物の長手方向に挿入可能な中央糸と呼ばれる繊維束によって構成される。組糸の長手方向に対する配向角度（組角度）が自由に設定できるため、その硬さや強さを自由に設計することが可能となる。図8の写真に示したものは、組角度の異なる組物を強化形態とする炭素繊維／エポキシ樹脂複合材料パイプである。さらに、断面形状を自由に設計できるため、設計の自由度が大きい。したがって、要求性能に応じた部材の作製が可能となる。

以上のように、日本の伝統的な繊維加工技術である組紐・組物技術が、今後の発展が大いに期待される先端材料分野において非常に重要な役割を担う可能性を秘めていることを理解していただけるかと思う。

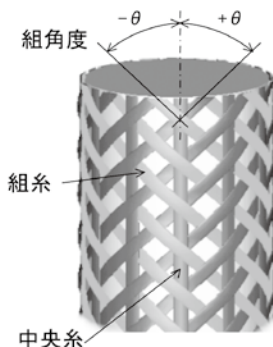


図8 組物の構造および組角度の異なる組物複合材料パイプ

# プライ・スプリット Ply Split

Makiko Tada  
多田牧子



Ply Split はラジャスタンやグジャラートなどインド北西部やパキスタンの遊牧民に古くから伝わるテキスタイル製作技法の1種です。ply (プライ) は撚り、split (スプリット) は分割、裂く、分けるを意味します。その意味の通り、2〜4本撚りのコードの撚りをゆるめて分け、その隙間に他のコードを通して紐や立体を作るものです。構造は組紐と酷似しており、私も初めて見た時は組紐だと思いました。

現地での使用材料は主にヤギの毛や綿で、ラクダの腹帯(写真1)として用いられて来ました。もともとは実用的に使われるものですが、かなり複雑な模様も表現できるため、祭りなどの装飾品にも使われているそうです。

1970年代にバージニア・ハーヴェイやピーター・コリンウッドがこの技法を研究し、Handweaver's Guild of AmericaのConvergenceなどでワークショップを行い広めました。現在は固い素材や柔らかい素材などいろいろな材料で、ネックレス(写真2)・ブレ

スレッド・指輪などのアクセサリーをはじめ、キーホルダー(写真3)、ストラップ、マフラー・衣服・帽子・バッグ・バスケットなどが作られています。形を良く保つ構造のため、立体を作るのにたいへん適していますから、ファイバーアーティストの間では人気のある技法です。日本では島貫昭子氏が素敵な作品を制作なさっています。

Ply Splitは、Braids 2012(マンチェスター)でのワークショップでたいへん好評でしたので、組紐・組物学会でも今回取り上げることにいたしました。すでに東京のワークショップでキーホルダーとストラップ(写真4)を制作しております。京都では5月に行う予定です。ぜひご参加下さい。

技法としてはピーター・コリンウッドによって、おおむね以下の3種類に分けられています。(写真5)  
・SCOT (single-course oblique twining): 一方向交差。代表的なもの ZigZag 模様、2連さなみ模様など。  
・POT (plain oblique twining): 双方向交差。この場合



写真1 ラクダの腹帯(多田牧子所蔵)



写真2 Julie Hedgeの作品、ネックレス



写真 3 Julie Hedge の作品、キーホルダーいろいろ



写真 5 右から SCOT, POT, TLOI (多田牧子 1998 年制作サンプル)

の plain は plain weave (平織) と同じような意味を持つと思います。おおむね 1-1 の交差をさせます。

・TLOI (two-layered oblique interlacing) : 二重構造交差。2色を AABB のように 4本撚り合わせて作ったコードを用いて作るもので、高台の組紐の二枚ものと同じように表裏に色違いの模様ができます。

使う道具としては、コードの撚りを開いて別糸(コード)を通すためのものが必要なだけです。現地では大きい針穴のある木の針を使用していました。ピーター・コリンウッドは止血鉗子やラッチ・フック (タッピー、

鉤針状のもの)を最初に使用しました。しかし、その後、水夫のロープ用の Gripfids (写真 6) を用いる事にしました。コードが通しやすい Gripfids が用いられるようになってから Ply Split は人気が出てきたようです。もちろん道具無しでも作ることができます。今回マンチェスターでワークショップを行ったエロール・ピレシユは長い親指の爪を使用していました。いろいろな可能性があり面白い作品ができる楽しい技法です。

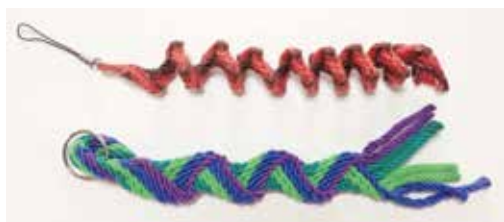


写真 4 東京ワークショップで制作した作品



写真 6 Gripfid で糸を通して





## 廣澤徳三郎・高台ワークショップ

伊賀

高台経験者を対象に、廣澤先生の高台ワークショップが伊賀で開催されます。高台の技術向上のためのワークショップです。お誘い合わせの上、ふるってご参加下さい。ワークショップは土・日継続で行われます。土曜日の夜に講話会と懇親会が行われます。京都のワークショップで応募なさった方の分を第1回4月13・14日、第2回4月20・21日、第3回5月11・12日に行う事になっており、すでにほぼ満員ですので、新たに開講日程を設定してもらいました。希望者が多い場合は順次増やしていただく予定です。高台は4台ですから、おおむね4人ですが、お二人で1台でもよろしければそのようにお申込下さい。

廣澤先生によれば「伊賀組紐の地に来て頂くので、1日おおむね4人と人数を少なくし、各人1台ずつ、4台で6時間（休憩1時間）とじっくり勉強して頂こうと思っております。講話会と懇親会を設け、少しでも皆様とお話しできればと思っています。」とのことです。



### ■ 日時

- 第4回 2013年6月8日（土）10：00－17：00  
2013年6月9日（日）9：00－16：00  
第5回 2013年6月15日（土）10：00－17：00  
2013年6月16日（日）9：00－16：00  
第6回 2013年6月22日（土）10：00－17：00  
2013年6月23日（日）9：00－16：00

### ■ 費用

授業料：一人2日間 18,000円（材料代を含みます）  
懇親会：3,000円の予定（参加者のみ）  
宿泊代：1泊5,000円前後（天然温泉付き）  
昼食代：近くにモクモクハウスの弁当店があります。  
500円程度

### ■ お問合せ、お申込方法

参加希望の方は以下まで、FAXか葉書でお申込下さい。ご住所、ご氏名、電話番号（携帯電話番号）とご希望の日にち（2日の場合は2日とも）をご明記ください。懇親会の参加・不参加、宿泊の希望も〇〇日の夜というようにお書き下さい。

〒518-0878 伊賀市上野西大手町3635-1  
廣澤徳三郎工房  
TEL：0595-21-1127, FAX：0595-24-3355

## ハmanaカ組紐ワークショップ（第1回）

京都

### 「組紐プレートでコサージュを作る」

ハmanaカ株式会社では、組紐関係の講習会を今後も定期的に行います。

- 講師：組紐・組物学会 多田牧子
- 日時：2013年5月23日（木）10：00～16：00
- 会場：ハmanaカ株式会社 本社 3階 会議室
- 参加費：1500円（組紐プレート付）
- 材料費：使う材料により金額が変わります。350～1500円
- ご持参いただくもの：筆記用具、鋏。
- お申込み・お問合せ  
京都市右京区花園藪ノ下町2番地の3  
ハmanaカ株式会社 ハmanaカ企画部  
TEL.075(463)5151(代)





## 第4回組物検定終了 12月

第4回の組物検定試験が2012年12月15～16日に京都工芸繊維大学で行われました。

組物検定は、組物を社会に広め、組物技術の向上と発展、技術指導者の育成を目的として、組紐・組物学会が2010年度から実施している検定試験です。性別・年齢・学歴等の制限はなく、またどの級からも受験することができます。検定基準となる各級の技術到達度は以下のとおりです。

■5級：丸台と角台の8玉、16玉。

組物の基礎的な技能と知識があるか。

■4級：丸台16玉、24玉。

組物について専門的スキルと知識があるか。

■3級：クテ打初級、綾竹台初級。

組物について専門的スキルと知識を持ち、丸台で創作組紐を作るなど、応用能力があるか。

■2級：クテ打中級、綾竹台、高台1枚物など。

組物について専門的スキルと知識を持ち、指導者の補佐ができるか。

■1級：クテ打上級、高台2枚物の綾書ができる。唐組台の実技。

組物について高度な専門的スキルと知識を持ち指導する実力があるか。

本年度は2・3・4・5級で、各級とも筆記と実技の試験が行われ、21名の方が受験しました。

筆記試験は獲得点数により判定します。本年度の合格ラインは5級が70点(平均80点)、4級が80点(平均91点)、3級が70点(平均73点)、2級は70点(平均66点)でした。

実技試験は試験会場で組まれた作品をもとに審査員が判定します。間違いの有無、時間内に所定の長さで組まれているか、動作と出来映えの3つの観点からA、B、Cの3段階評価とし、A、Bが合格となります。2級は自分が2年以内に制作した組紐作品の提示もありました。

その結果、5級合格者は4名、4級合格者は3名、3級合格者は4名、2級合格者は3名、可否結果は実技試験で制作した作品と共に、各受験者に年内に郵送されました。認定証の授与は2013年5月25日の懇親会場で行われます。

なお、今年不合格になった科目は、翌年にその不合格科目のみを受験して合格すれば、その級に合格することが出来ます。

## ワークショップ 京都 2013-2014

■第1回ワークショップ&レクチャー(詳細は次頁)

5月24日 ワークショップ 10:00～16:00

「高台」 廣澤徳三郎、「プライ・スプリット」 多田牧子・猪田宮子

5月26日 ワークショップ 9:00～12:10

「綾竹台の紐をプレートで組む」 小嶋博子

■第2回ワークショップ&レクチャー

8月23日・24日 ワークショップ 10:00～16:00

「組紐ディスクでBraid-in-Braid」 多田牧子

■第3回ワークショップ&レクチャー

10月11日・12日 ワークショップ 10:00～16:00

「クテ打」 木下雅子

■第4回ワークショップ&レクチャー

12月6日・7日 ワークショップ 10:00～16:00 「検定直前ワークショップ&レクチャー」 多田牧子

■第5回ワークショップ&レクチャー(2014年)

2月14日・15日 ワークショップ 10:00～16:00

「円形唐紐」 多田牧子

## ワークショップ 東京 2013-2014

ワークショップが主で随時レクチャーをする予定です。

■第1回ワークショップ&レクチャー(詳細は次頁)

5月11日 10:30～16:00 ワークショップ

「硬い素材で組む」 岡安康子

■第2回ワークショップ&レクチャー

7月13日 10:30～16:00 ワークショップ&レクチャー

「綾竹台の紐をプレートで組む」 小嶋博子

■第3回ワークショップ&レクチャー

9月14日 10:30～16:00 ワークショップ&レクチャー

「円形唐紐」 亀井三枝子、相原日出子

■第4回ワークショップ&レクチャー

11月9日 10:30～16:00 ワークショップ&レクチャー

「クテ打」 木下雅子

■第5回ワークショップ&レクチャー(2014年)

1月11日 10:30～16:00 ワークショップ&レクチャー

「組紐プレートでスイッチング」 多田牧子

■第6回ワークショップ&レクチャー(2014年)

3月16日 10:30～16:00 ワークショップ&レクチャー

「組紐プレートでコサージュ」 多田牧子

ワークショップの予定は変更されることがありますので、学会のホームページで最新情報をご確認下さい。

## 京都第1回ワークショップ詳細案内

今回は5月25日のシンポジウムと合わせてその前後に4月と6月分のワークショップを行います。

■5月24日(金) 10:00～16:00

高台の組紐と Ply Split のワークショップを並行して行います。途中で入れ替わりますので、両方受けることができます。

「高台の組紐」講師：三代目廣澤徳三郎

「プライ・スプリット」講師：猪田宮子、多田牧子

材料費+ワークショップ維持費：3000円の予定

参加費：組紐・組物学会 無料、一般3000円

ご持参いただくもの：筆記用具、鋏、セロテープ、Gripfids (お持ちでしたら)



■5月26日(日) 10:00～16:00

綾竹台の組紐を組紐プレートで組みます。

「綾竹組」講師：小嶋博子

材料費+ワークショップ維持費：2000円の予定

参加費：組紐・組物学会 無料、一般3000円

持参品：組紐プレート、EZ ボビン10個 (お持ちでしたら)、筆記用具、鋏、組紐プレート (500円)、EZ ボビン (小1個60円、中1個100円) は会場でお求めいただけます。EZ ボビンは貸出も致します。

■会場：京都工芸繊維大学 60周年記念館

■申込み締切：5月15日まで

■お申込み・お問合せは 組紐・組物学会事務局



## 東京第1回ワークショップ詳細案内

「固い素材を組む」

籐を用い、バスケットタリの技法で一輪挿しを作ります。

■日時：2013年5月11日(土) 10:30～16:00

■講師：岡安康子

■会場：東京都文京区目白台2-8-1 日本女子大学  
80年館5階 被服学科物理学実験室

80年館は2つのビルが繋がっております。正門に近い方の下記の地図の矢印の先の入口からお入りになり、エレベーターで5階までお上がり下さい。エレベーターを出てすぐを右、そしてすぐを左に曲がると物理学実験室があります。地図をご参照下さい。



■参加費：組紐・組物学会・衣の会会員 無料、一般2000円

入会申込は当日にもできます。

■材料費+ワークショップ維持費：2000円の予定

■持参品：筆記用具、タオル、木を切っても良い鋏

■お問合せ・お申込方法：ご住所・お電話番号をお書きの上、4月20日から30日までの間に以下の方法でお申込みください。

はがき：191-0032 日野市三沢2-6-44-203 (株) テクスト内 組紐・組物学会

FAX：042-593-3204

メール：books@texte.co.jp



## 作品・製品展示会 京都5月24日～

組紐・組物学会では第3回作品・製品展示販売展を開催致します。組紐・組物であれば材料や形態等問いません。丹誠込められた作品、個性あふれる作品、新しい発想の作品や製品を募集します。実物以外にもパネル（作品制作工程、研究発表、製品説明）やカタログ・見本の展示も可能です。皆様、どうぞご参加ください。

■ 会期：2013年5月24日（金）～26日（日）

10：00～17：00 最終日は16:00

■ 会場：〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町 京都工芸繊維大学 60周年記念館 2階

■ 申込み締切り：2013年4月15日

■ 申込み方法：はがき、FaxまたはEメールで学会事務局にお申込みください。会員は氏名、作品名（帯締め、ショール、立体作品、新しい製品など）、題名および意図とおおよそのサイズをお知らせください。会員以外の方は、住所（郵便番号）氏名、生年月日、電話番号、Fax番号、メールアドレスと作品名および意図とおおよそのサイズをお知らせください。

■ 出品料：会員2000円、一般5000円

■ 作品および製品

・作品：50 x 50 cm のテーブル上に展示できるもの、または45 x 100 cm のダンボールパネルにピンなどで張れるもの。その範囲内に飾れる物なら何点でも構いません。オリジナル作品で、応募者本人が制作した組紐・組物作品に限ります。大きい作品の場合は事務局または多田にご相談ください。

出品物に題名・氏名を明記した布または紙を添付してください。

・製品：組紐関係の製品・素材・道具など、組紐複合材料と応用製品、組紐製造機械など

■ 写真提出締切り：2013年4月30日

必ず作品・製品の写真と、作品の場合は作者本人の顔写真をメールでご送付ください。

作品製作が間に合わない場合は製作途中の部分写真でもけっこうです。

作品・製品の写真、顔写真ともデジタルカメラで高解像度（300万画素以上）で撮影し、メール（s-tada@texte.co.jp）に添付してお送り下さい。携帯電話のカメラで撮影した写真は、通常あまり良い印刷にはなりません。

■ 搬入・搬出

・作品の搬入・搬出

搬入日時：5月24日 9：00～10：00 持ち込める方は直接会場にお持ち下さい。持ち込めない方は作品

に名前をつけて5月15日までに事務局までご送付下さい。パネル、テーブル、黒布はこちらで用意します。それ以外の展示に必要な材料・道具はご自分でご用意ください。

搬出日時：5月26日16：00～17：00（搬出にいらっしやれない方は事務局にご相談下さい）

■ 製品の搬入・搬出（日時は作品と同じ）

製品：製品見本とカタログの展示の場合は搬入は宅配便でご送付いただき、展示・搬出は学会が行い、宅急便で返送いたします。出品料と学会が送付などを行った場合は送料が必要です。

製品販売の場合は搬入と販売を各自でお願い致します。販売、搬出、返送は学会でも行います。そして各社の精算書に基づき販売金額をお振り込み致します。出品料および売り上げの10%を経費として頂きます。

■ 表彰と広報

出品された作品を対象に、組紐・組物学会学会賞1名、優秀賞2名、学会奨励賞1名を、また製品を対象に学会賞1製品を、理事の中の数名からなる学会賞選考委員会にて決定します。表彰式は懇親会場で行われます。

事前にDM葉書を作成し、広く告知をします。また展示された全作品・製品は学会発行のブックレット（図録）に掲載され、作品の一部は学会のニュースレターやホームページにも掲載されます。

■ 作品・製品の送付・お問合せ先

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町 京都工芸繊維大学6号館2階 伝統みらい教育研究センター 組紐・組物学会事務局 猪田宮子  
TEL:075-724-7844、Tel/Fax: (075)724-7844 E-mail: inoda@kit.ac.jp または makiko@texte.co.jp

## 第2回シンポジウム 京都

「組紐—美しくそして強く」

本学会の学術講演会である第2回シンポジウムを開催します。実行委員会（委員長：魚住忠司）では講演発表者と予稿集の原稿を下記要領にて募集しております。

■ 場所：京都工芸繊維大学 60周年記念館（東門）1階講義室

■ 主催：組紐・組物学会、京都工芸繊維大学 伝統みらい教育センター（共催）

■ 日程：5月25日（土）シンポジウムおよびバンケット（懇親会）

（作品・製品展示会は24日～26日2階講義室で）

■ 参加費：会員3,000円、一般8,000円、学生無料（バ



ンケット代は含みません)

■ 講演募集：

組紐・組物に関するあらゆる分野からの講演を募集します。講演内容は、伝統工芸・歴史・文化・芸術としての組紐、工業・産業用途としての組物、複合材料としての組物など。講演形式は、口頭発表です。一件あたり20分（質疑応答を含む）を予定しておりますが、申し込み講演件数により、変更する場合があります。講演を希望される方は、学会事務局宛に必要な事項をご記入の上、お送りください。

■ 講演申込み締切：4月10日

予稿集の原稿提出要領は以下の通りです。

■ 内容：表題、氏名、本文、参考文献、図・表・写真

■ 分量：文章は1200～1400字、図表写真は1～2葉(写真や図の数が多くなれば文字数は少なくなります)

■ 提出：文章はメールに入れて下さい。表はMS Wordで作成した.doc ファイルをメールに添付して下さい。図と写真はPowerPointに貼り込んで、メールに添付して下さい。

写真の解像度は350dpi以上（印刷されたときの幅が5cm必要なら、原稿の大きさは4倍の幅20cmが必要）で不明の点はメールでs-tada@texte.co.jpまでお問い合わせ下さい。

■ 予稿集原稿締切：4月30日



CFRP デザイン・コンテスト

炭素繊維組物を参加者が造形し、翌日熱硬化性樹脂でモールドした複合材料を作ります。炭素繊維複合材料の強さが実感できます。ご自分の作品は持ち帰りできます。写真は2月9日京都WSでの説明会



組紐・組物学会  
The Kumihimo Society

役員

■ 会長

多田牧子：組紐研究家

■ 副会長

仲井朝美：岐阜大学工学部

■ 理事

上田隆久：日本ピラー（株）

魚住忠司：村田機械（株）

大谷章夫：岐阜大学工学部

小嶋博子：組紐研究家

木下雅子：クテ打組紐技法研究会々長

倉谷泰成：（株）カド コーポレーション

國分成哲：（株）コクブンリミテッド

品川雅明：JX 日鉱日石エネルギー（株）

多田眞作：（株）テキスト

寺本 靖：（有）寺本文化財工芸社

廣澤浩一：三重県組紐協同組合顧問

圓井 良：圓井繊維機械（株）

渡辺一生：渡敬（株）

事務局

猪田宮子：京都工芸繊維大学

組紐・組物学会事務局

京都工芸繊維大学大学院

伝統みらい教育研究センター内

〒606-8585

京都市左京区松ヶ崎御所海道町

Tel/Fax: (075)724-7844

E-mail: inoda@kit.ac.jp

<http://www.kumihimo-society.org>

ご入会、ワークショップ、組紐検定、シンポジウム講演、作品・製品展参加のお申し込みはこちらをお願いします。

